

『今月の天候と農作業』

通巻第5698号

4月号

令和7年3月29日発行

宮崎県
宮崎地方気象台



【特に注意を要する事項】

期間のはじめは気温がかなり低くなる見込みです。

【予報のポイント】

期間のはじめは、寒気の影響を受けやすいため、気温がかなり低くなる見込みです。

【確率(%)】

要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	九州南部	30	30	40
降水量	九州南部	40	30	30
日照時間	九州南部	30	40	30

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1 週目の予報> 3月29日(土)～ 4月4日(金)

天気は数日の周期で変わり、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日もありますが、高気圧に覆われて晴れる日もあるでしょう。

<2 週目の予報> 4月5日(土)～ 4月11日(金)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<3 週目から4週目の予報> 4月12日(土)～ 4月25日(金)

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

※明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報
(<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>)を参照してください。

普通作物

◆早期水稻

1 田植え後の水管理

茎葉からの蒸散を抑えるため、活着までは深水で管理し、その後、水温を上昇させるために浅水で管理します。なお、晩霜の予報が出された場合は保温のために深水で管理しましょう。

2 病虫害対策

田植え前までに、いもち病の対策として箱施薬を行います。補植用の余り苗は、いもち病の発生源となるため早めに処分します。スクミリングガイ（ジャンボタニシ）の発生を確認したら、浅水管理や薬剤での防除を行いましょう。

3 除草対策

除草剤（初中期一発剤）は必ずラベルの記載内容を確認し、ヒエの葉齢を見ながら散布遅れがないようにします。処理後7日間は掛け流しをせず止水します。また、ジャンボ剤がしっかり拡散するよう処理時に5cm以上の水深を確保します。田植同時処理では、薬害対策として、田面の均平や植付深度、田植え後の土の戻りを確認し、田植え後は速やかに入水します。

初中期一発剤の散布遅れや水管理不足等で雑草が残った場合には、速やかに中後期除草剤を処理しましょう。

◆麦類

赤かび病防除のため、小麦では穂揃期（開花期）に、二条大麦では穂揃期の7～10日後（葯殻抽出期）に1回目の、さらに、その7日後に2回目の薬剤防除を行いましょう。

（福川 泰陽）

施設野菜

◆きゅうり

日中の気温上昇や日射量の増加により蒸散量が増加するため、かん水量を増やします。葉に強い直射光が当たると、葉焼けや萎れが発生するため、日中はカーテン等を利用して日射量を調節します。また、湿度が低下すると曲がり果や尻細果等の発生が多くなるため、通路散水などで湿度を確保しましょう。

◆ピーマン

茎葉の繁茂による白果や収穫遅れによる赤果の発生、成り疲れ等によるうどんこ病の発生が多くなるため、光を遮っている茎葉の整枝・せん定や適期収穫を徹底します。また、土壌水分や肥料が不足すると草勢が著しく低下するため、こまめなかん水・追肥を行い、草勢を維持しましょう。

◆トマト類

気温の上昇に伴い裂果が多くなるため、着色度合いを調整しながら収穫します。また、裂果対策として果実を結露させない温湿度管理、土壌水分変化の少ないかん水管理等に努めます。

◆いちご

日中の気温上昇や日射量増加により、果実温度が上がることで、果実傷みによる事故が多くなります。収穫時の果実温度に注意するとともに、収穫後は冷蔵を行います。

また、次作の育苗を開始する時期です。健全な親株を確保するために、炭疽病の簡易検定を行い、感染の疑いのある苗は早期に除去・処分するなど、万全の対策を実施しましょう。

(境田 耕作)

葉茎根菜類・いも類

◆全般

いも類や夏野菜の定植期、は種期です。マルチ栽培では萌芽不良や生育障害等を防止するため、適切な土壤水分（手で握って団子になる程度）がある状態で畝立てとマルチ張りを行いましょう。

◆さといも

早生種のマルチ栽培の萌芽期です。萌芽が始まったら、芽がマルチを押し上げている場所に穴を開けて芽出しをしましょう。

◆食用かんしょ

普通掘栽培の定植期です。育苗のかん水量を徐々に減らすとともに、換気を行い、外気に順化させましょう。4月上旬は、遅霜や気温の低下により定植後の活着が悪くなるため、天候を見ながら定植しましょう。

採苗は定植3～5日前の午後を目安に行います。苗は地際から5cm以上離れた位置で採取し、採苗後は苗全体を農薬で消毒します。調整後の薬液は日光や汚れなどで分解するため、当日限りの使用としましょう。

◆スイートコーン

大型・小型トンネル栽培は、4月上～中旬の雄穂抽出期が追肥の目安になります。雄穂が出始めたら、窒素成分で10aあたり5～6kgを追肥しましょう。雄穂抽出から10～14日後に雌穂（絹糸）が抽出し果実が肥大します。トンネル内の高温による葉焼け等を防止するため、ビニールの開閉管理に気をつけましょう。株元から発生する分げつは、除去せずにそのまま残しても生育に大きな影響はありません。

（中村 剛）

果樹

1 常緑果樹

◆かんきつ全般

今年は着花量が多く新梢量が少ない表年の予想です。近年は発芽から開花までの期間が短く、花器の充実不足に伴う生理落果が見られます。花器の充実のために、発芽期から開花期にかけて窒素主体の葉面散布を数回行います。また、そうか病の発生が増加しています。前年度発生園は防除を徹底するとともに、罹病枝葉の園外への持ち出しを徹底しましょう。

◆完熟きんかん

剪定が終わっていない園では、必ず4月上旬までに剪定を実施します。たっぷりのかん水、春肥の施用、完熟堆肥等の有機物の投入による樹勢回復を徹底します。

発芽揃いを良くするための、ハウス内の蒸し込みと、新梢の充実を図るための、窒素主体の葉面散布を数回行います。

◆マンゴー

早期作型の収穫時期です。収穫が近づくにつれて果皮が弱くなり、果皮への結露が原因と考えられる「あざ果」や「やに果」が増加してきます。対策として、早朝の換気やヒートポンプによる除湿によってハウス内の急激な温度上昇を抑え、結露を防止します。また、次第に日射が強くなり、日焼け果が発生しやすくなります。カーテンや遮光ネットを利用し、日焼けを防止しましょう。

2 落葉果樹

◆花き

摘蕾は生理落果後の摘果に比べ、樹体養分の確保や翌年の花芽分化に有効です。開花始め頃から二分咲までの間に実施します。1結果枝当たり1花残すことを原則とし、長い結果枝には2、3花を残します。

(黒木 宏憲)

花き

◆電照ギク

曇雨天の日が続くと、ハウス内の湿度が高まり、白さび病が発生しやすくなるため、定期的に防除を行います。

年末以降に出荷する作型の親株育成の時期です。作型や穂冷蔵の有無等の条件を考慮し、計画的に作業を進めます。

◆夏秋ギク

5、6月出荷作型の「フローラル優香」では、低温により貫生花が発生しやすくなるため、4月中は10℃、消灯後3週間程度は16℃の夜温を確保します。

また、「精の一世」の7月以前の出荷作型では、低温により幼若性を獲得する恐れがあるため、消灯前は13℃程度、消灯後は18℃程度の夜温を確保します。

◆スイートピー

受粉から子実肥大の時期です。

つる下げにより草勢を弱めたり、採種率の低い品種では株を揺らしたりして着莢を促します。

また、充実した大きな種子を得るために、定期的にかん水や施肥を行います。

◆ホオズキ

7月出荷作型では4月中～下旬、8月出荷作型では4月下旬～5月上旬に、マルハナバチを導入して着果を促進します。

日中のハウス内温度が15℃を下回ると、花粉の発芽不良やマルハナバチの活動停滞により着果不良になりやすいため、保温に努めます。

◆シキミ

春芽の萌芽時期です。

定期的な防除を実施し、黒しみ斑点病やサビダニ類の発生を抑えましょう。

◆ラナンキュラス

球根養成期です。

養成株は蕾をできるだけ早めに摘除し、徐々にかん水頻度を減らすことで、球根の肥大を促します。

(山塚 裕美)

畜産

◆家畜防疫対策

3月7日現在、全国14道県において本県の2例を含む51例の高病原性鳥インフルエンザが発生しています。野鳥が営巣地に帰る時期までは農場への侵入リスクが高い状況が続きます。農場を守るため、畜舎内外の消毒はもとより、人・車両・物資の消毒と野生動物等の侵入防止対策を徹底し、農場にウイルスを侵入させないよう飼養衛生管理基準に基づく侵入防止対策を徹底しましょう。

◆家畜

今月は外気温の日較差が大きくなるため、家畜や家禽（かきん）の免疫力が低下し、呼吸器病等の感染症が発生しやすい時期となります。気温が上がる日中は畜舎カーテンを開け、換気扇やファンにより換気を十分に行いましょう。

また、乾燥している場合はほこりやちりが舞い呼吸器病に罹りやすくなるため、細霧器等を使用して湿度を適度に保ち、畜舎内が乾燥しすぎないように留意します。病気の発生時には早期に対処できるよう、家畜の健康状態の確認を徹底しましょう。

◆飼料作物

今月は、早まきのトウモロコシやソルガムの播種時期です。は種する前に土壌分析を行い、適切な肥培管理を行いましょう。

イタリアンライグラスの収穫も本格化します。収穫適期は、ほ場全体の4～6割が出穂した時です。遅れないよう適期収穫を行いましょう。（小田 弥生）

特用作物

◆茶

1 防霜対策

一番茶の生育に合わせ、防霜ファンの状況（設定温度、首振り角度、回転方向）やスプリンクラーヘッドの詰まり等を確認し、誤作動による霜害が発生しないよう注意しましょう。

2 芽出し肥の施肥と防除

芽出し肥は、硫安等の速効性肥料を摘採の25日前までに施用します。

気温の上昇に伴いカンザワハダニやツマグロアオカスミカメ、コミカンアブラムシ等の発生が多くなるため、発生状況を定期的に確認し、地域の防除暦に準じて丁寧に薬剤を散布しましょう。

3 一番茶の摘採及び製造

高品質な荒茶を製造するために、茶工場の処理能力や一番茶の生育状況、降雨等を考慮し、「摘み遅れ」とならないよう摘採計画を立て適期摘採に努めます。

また、事前に摘採機の刃研ぎや製茶機械の点検・清掃・試運転等を行いましょ

う。摘採時には摘採袋への生葉の詰め過ぎを避け、摘採後30分以内に茶工場へ持ち込み、欠陥の無い荒茶製造に努めます。荒茶への異物混入防止対策も徹底しましょう。

（竹田 博文）

◆しいたけ

1 選別

乾しいたけは、用途に応じて取引されるので、商品価値を高めて販売するためにも、規格表を参考に選別します。特に、次の点に注意します。

- ① 異物（ほだ木の樹皮、虫、金属類等）は絶対入れない。
- ② 乾燥不良、虫害、カビ、黒子など規格外品は絶対に混ぜない。
- ③ 3cm以下を他のサイズに混ぜない。
- ④ バレと縁に巻きがあるものとは別々にする。
- ⑤ できるだけ種菌、採取時期、日和子、雨子別に行う。
- ⑥ 丸形と変形とは区別する。
- ⑦ 湿度の低い晴天時（雨天時は避ける）を選んで行う。

2 箱詰め

箱詰めは、最初からたくさん入れずに、まず2分入れて揺すり込み、さらに4

分、6分、8分と入れ、最後に11分ほど入れて丹念に揺すり込みます。箱詰めがゆるいと、輸送途中で欠け葉を生じ、商品価値の低下を招く恐れがありますので注意が必要です。

(田畑 美香)

関連情報

◆農作業安全

「春の農作業安全確認運動期間」です。

農業機械が通る道路などを事前にチェックし、危険箇所の確認を行うとともに、危険箇所では迂回や減速を行うなどして、安全な農作業を心がけましょう。

◆農薬適正使用

農薬の使用に当たっては、散布前に必ず農薬ラベルに表示された適用作物、適用病害虫、濃度、量、時期、回数等の使用方法をしっかりと確認しましょう。

散布時には、河川等の周辺環境、隣接するほ場の作物、周辺住民、家畜等に害を与えないよう周囲への飛散・流出に注意しましょう。

農薬散布後に、散布履歴を記帳するとともに、使用した防除器具を十分に洗浄しましょう。

◆茶セーフティネットの開始

茶の加工時期となり、国の令和7年度茶セーフティネット構築事業が4月から開始されます。

事業加入者の皆様は、4月中に積立金の納付が必要です。

県では、燃料価格が高止まりしているため、昨年度に引き続き、皆様の積立金の一部を補助します。皆様は、県補助額を差し引いた額を積立金として納付いただきます。

なお、補てん対象となる燃料は、令和7年4月から10月までに購入した茶加工用の燃料になります。毎月の燃料購入実績を忘れずに提出しましょう。

(農業普及技術課)

内容の詳細について

4月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県総合農業試験場及び山村・木材振興課、宮崎県たばこ耕作組合が担当しています。各作物の病害虫の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

☆「今月の天候と農作業」はホームページにも掲載しています。

(<http://nougyoukishou.pref.miyazaki.lg.jp>)

向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

作物名	病害虫名	発生量	発生状況と防除対策
早期水稲	いもち病	－	置き苗は、発生源や伝染源となるため早めに処分します。
	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ	－ －	箱施薬をしていないほ場で、イネミズゾウムシの発生が目立ち始めたら粒剤の水面施用を行います。スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺あるいは粒剤を水面施用します。
野菜・工芸作物	アブラムシ類	やや多	各種植物ウイルスを媒介するため、早期発見・防除に努めます。
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病 灰色かび病	並 やや多 並 並	気温の上昇に伴い各種病害の発生に好適な条件となるため、気象の変化には細心の注意を払い、施設内の温湿度管理を徹底します。いずれの病害も多発してからでは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。
	黄化えそ病(MYSV) ミナミキイロアザミウマ	並 並	ミナミキイロアザミウマは、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいいため、最少でも7日間隔で3回の連続防除を行います。
	タバココナジラミ	多	タバココナジラミの発生が多くなっています。効果のある殺虫剤が少ないため発見したら直ちに防除し、薬剤散布後は防除効果に注意を払い、必要に応じて適宜追加防除を行います。
冬春ピーマン	斑点病 うどんこ病	多 やや多	いずれの病害も多発してからでは防除効果が上がりにくいいため、予防・初期防除に重点をおきます。被害茎葉等は伝染源となるため、整枝後の残渣等はすみやかに持ち出し処分します。
	ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	やや少 やや多	アザミウマ類、コナジラミ類は、気温の上昇とともに増殖しやすいため、発生初期に防除を行います。
	タバココナジラミ	並	
冬春トマト	葉かび病 灰色かび病 すすかび病 うどんこ病	やや少 並 多 やや多	すすかび病、うどんこ病の発生が多くなっています。発病葉をできるだけ摘葉したのち、丁寧に薬剤散布を行います。発病後の防除は効果が低いため、予防散布に重点をおきます。
	タバココナジラミ	多	タバココナジラミの発生が多くなっています。ウイルスの媒介虫であることから、発見したら早めに防除し、密度低下に努めます。
	うどんこ病 灰色かび病	やや多 並	うどんこ病が多くなっています。ハウス内を乾燥させすぎずに管理します。発病葉・果実は早めに摘除してハウス外に持ち出します。
	ハダニ類 ワシツコナジラミ ヒラズハナアザミウマ	並 並 やや少	ハダニ類は、複数の殺ダニ剤に抵抗性をもつ個体群がいるため、物理的に窒息死させる気門封鎖剤を防除体系に組み込みます。ヒラズハナアザミウマは寄生花率10%以上で被害果が発生する恐れがあるため、低密度時に防除を徹底します。
サツマイモ	基腐病	－	育苗床に発生を確認した場合は、種イモごと速やかに処分します。採苗当日に苗消毒を行います。消毒液は必ず当日に調整した物を使用します。
カンキツ (露地栽培)	そうか病 かいよう病	多 並	そうか病の発生が多くなっています。罹病した枝葉は春葉への伝染源となるため徹底的に除去します。また、春葉での感染が多いと開花後果実への感染を抑えることは難しいので、発芽初期から展葉期の防除が重要になります。
	ミカンハダニ	並	ミカンハダニの冬期防除が実施できなかった場合は、発生状況に応じて薬剤散布を行います。
茶	カンザワハダニ	やや多	一番茶萌芽期以降発生が多い場合には、農薬使用基準の摘採前日数等に注意して防除します。

1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。

2) 病害虫防除肥料検査センターのHPアドレスは、QRコードより閲覧してください。

